

民泊の流れ [民泊体験の一例]

(1泊2日の場合)

1日目

14:00 入村式

歓迎のあいさつ、今後の行動予定や注意事項などを説明



14:30 宿泊する民泊先へ移動

班に分かれて民泊先へ移動

●農林漁業体験

季節に応じた農林、漁業体験



●夕食づくり・入浴・団らん

採れたての食材を使っての食事づくり。民泊先との心の交流を図る。



21:00 就寝

2日目

6:30 起床・地域散策・朝食づくり

近所を散策して、田舎の雰囲気を満喫

8:30 離村式 民泊先とのお別れ



簡易宿所の手づくりの看板

南島原市の旅館業（簡易宿所）の許可を得た農林漁家に渡されたこの看板は、いわば「南島原市の民泊」の証。感動と笑顔の象徴として、全国の観光客がこの看板を目指す日も近い！

さまざまな種類の民泊体験ができます。まちを散策しながら地域の歴史や温かな人たちのふれあいを楽しんだり、自らの手で収穫した季節の野菜や魚を、夕食として調理することも民泊体験の醍醐味です。
1.牛のえさやり体験／2.魚さばき体験／3.ブロッコリーの収穫体験／4.地域散策／5.たまねぎ植え体験／6.こんにやく作り体験



地域を元気にする「農林漁業体験民泊」への取り組みにぜひ参加しませんか。この体験民泊は、あるがままの地域の暮らしや、農林漁業体験を通して「ほんもの」と出逢い、地域の人々と交流することが目的で、農林漁業を営む皆さんの生きざまに触れることで、旅人の心が高まり、感動を

あなたも！ぜひ。

成功の秘訣
受入者（60代男性）に成功の秘訣を聞いたところ、「日ごろから夫婦仲を大切にすること」だそうです。私たちの豊かな生活が民泊の客を招き、民泊が、私たちの生活をより豊かにするとても素敵なことですね。

成功の秘訣

全国的に見ると、南島原市の体験民泊への取り組みは早くありませんでした。それでも、全国から「一度来たい」という人はもちろん「ぜひ、また来たい」と

成功の秘訣

「お客様が来るとおじいちゃんやおばあちゃんが元気になるんです。始めてみると意外と楽しくできました（60代男性）」という声もあるように、収入を得ながら、受け入れを楽しんでいるようです。

始めたけれど、お客さまは来てくださるかしら？

「最初は不安でしたが、カブト虫がたくさん獲れてびっくり。今度は釣りを楽しみたいです（30代男性）」「おばあちゃんと一緒に過ごす夜は実家に帰ったようですね」と受け入れた人は言います。自らの家業である野菜の収穫体験や、採れたて

私たちの日常に、感動してもらえという感動

「最初は不安でしたが、カブト虫がたくさん獲れてびっくり。今度は釣りを楽しみたいです（30代男性）」「おばあちゃんと一緒に過ごす夜は実家に帰ったようですね」と受け入れた人は言います。自らの家業である野菜の収穫体験や、採れたて

商工観光課
☎050(3381)5032
または 南島原ひまわり観光協会
☎0957(76)1800
Eメールkankou@himawarinet.ne.jp
URL : http://himawari-kankou.jp/
※観光協会HPでブログ更新中
ツイッター (@himawarikankou)
でも情報発信中！

「農林漁業体験民泊は、お盆やお正月に親せきを迎え入れる感覚に近いです。自らの家業である野菜の収穫体験や、採れたての野菜を使つての食事づくりを一緒にしたり、郷土料理を囲んでの団らんを楽しんだり。普段どおりの営みを体験してもらおう。それが、農林漁業体験民泊なのです。」
受入れ前には、実際に先進地で宿泊体験をしたり、研修会（料理教室等）を開いたり、同じ実践者との意見交換会なども行いますので、何の心配もありません。申請手続きなどのお手伝いを、市と観光協会で行います。また、申請料は、観光協会が一部助成します。興味がある人は、気軽に左記の連絡先に連絡ください。また、ちょっと話だけでも聞いてみたいという方も歓迎です。

民泊を始めよう

南島原市の農林漁業体験民泊



中にチーズが入っているハンバーガーが大女子きです
大平レトロ

お母さんがつくったあまいホットケーキが大好きです
大平レトロ

